



乳幼児教育・保育推進事業 通信
～令和6年度 発達・子育て支援専門部会～



令和6年8月5日(月)に、令和6年度第2回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 発達・子育て支援専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



第2回の主な内容

検討(課題に対する対応策の検討)

- (1) 専門職による園訪問支援体制について
- (2) 移行支援シートの統一化について



専門部会とは



「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したものの。



○検討（課題に対する対応策の検討）

（１）専門職による園訪問支援体制について

（第１回で出た意見についての補足や新たな意見など）

1 相談方法の観点

（就学前施設と療育施設では互いに子どもの様子を見合い、情報を共有することで、その子どもに対する支援が成立すると考えるため）療育施設で支援する際には就学前施設の先生との話合いの内容を踏まえるように、園訪問する際にはあらかじめ就学前施設の先生との話合いが必要
複数名で訪問することになるとしても、子どもたちに過度な緊張感を与えないような工夫が必要

2 相談内容の観点

就学前施設にいる療育施設に通っていない子どもへの対応も含む就学前施設の先生に対する支援の必要性

3 訪問する専門職の観点

（第１回意見「子どもの育ちと発達の両方の視点を持っている専門職が必要」に関連して）子どもの育ちに加え、各就学前施設の方針について理解し、教育・保育の観点も踏まえて協働してくれる方

センターにおいて、専門職とは日頃から専門的な内容について意思疎通を図っておくことが必要

（第１回意見「就学前施設の先生が療育施設に見に行くこともとても参考になる」に関連して）療育施設では小集団での様子を見ることができ、進路について保護者と話がしやすくなる

4 その他

今後、実際に運用していく中で、センターと各就学前施設ですり合わせながら、より良い園訪問支援について検討していくことも必要

子どものプライバシーや保護者の了承などクリアすべき課題は多いものの、療育の手法を実際に見て、後で気付いたことを話し合う方法等による療育施設での研修は有効

異なる療育施設に属する先生同士による互いの施設の見学の機会の必要性

各療育施設における療育の方針や内容についての情報発信が必要



(2) 移行支援シートの統一化について(課題に対する対応策の検討)

<参考>

| | |
|----------------|--|
| 【渡す側】 公立幼稚園 | 保護者に対し移行支援シートの活用を提案するタイミングが難しい 移行支援シートは1枚ものになっているため、それだけでは子どもの情報を伝えきれない |
| 【受け取る側】 小学校 | シートを受け取るタイミングが難しい 年度末ではなく、7月頃から始まる就学相談の際にあらかじめ子どもの情報が分かれば相談を進めやすくなる 「入学当初予想される姿」欄に記入されている姿とは異なる場合が多い |

(第2回専門部会資料P4「課題と感ずること」より抜粋)

1 課題 に対する対応策

個人懇談などの機会を通じ「就学にあたり心配なことを小学校の先生に前もって知っておいてもらう」ことのメリットを伝える

2 課題 に対する対応策

移行支援シートは今後の支援の入口となる資料として取り扱い、シートの詳細については直接、就学前施設と小学校の打合せすることで情報共有を図る

3 課題 に対する対応策

(就学相談前後の動きは下記4のとおり柔軟に対応しながら)年長児1年間の子どもの成長が見えてくる2~3月頃の作成・提出のスケジュールだけは確定しておく

4 課題 に対する対応策

(保護者の同意取得が課題ではあるものの)移行支援シートに代わり、各就学前施設で作成しているその時点の「個別の支援計画」などの活用を図る
就学相談前にあらかじめ小学校の先生が就学前施設を訪問し、子どもの様子を見たり、園の先生からその子どもの話を聞く

5 課題 に対する対応策

就学相談などの機会を通じ「1度相談に来ていただくと、継続的に相談を受けることができる」「担任だけでなく学校全体で共通認識を持って対応できる」ことのメリットを伝えることで、双方のギャップを埋める



(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして設置するもの。

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したもの。

